

1. 科目名 (単位数)	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ (S) (2 単位)	3. 科目番号	SSMP3182 SSMP3182 SSMP3182 SSMP3182 SSMP3182
2. 授業担当教員	水島 正浩/庄司 妃佐/姜 壽男		
4. 授業形態	講義, 個別学習・指導, グループ学習	5. 開講学期	秋期
6. 履修条件・他科目との関係			
7. 講義概要	ソーシャルワーク実習指導は、実習指導Ⅰ、Ⅱ、Ⅲとソーシャルワーク基礎実習及びソーシャルワーク実習を軸として継続的に展開するよう構成されている。これらの授業の主な学習方法は、資料による情報収集、文献調査、グループ討議、ロールプレイ等多様な方法を用いて、社会福祉実践に必要な知識と技能の具体的な学習、また実習前・中・後指導を通じて、理論と実践との統合を図ることを目的としている。 ソーシャルワーク実習指導Ⅲは、ソーシャルワーク実習と並行して開講されており実習帰校指導と位置付けている。(実習) 実践を通じて課題となる事項を、本講義内で担当教員からのスーパービジョン、またグループ、報告・発表を用いて学生間で検討し、その結果を再び(実習) 実践へと結び付ける。(実習) 実践と講義との相互作用を通じてソーシャルワーク実践に必要な専門技術と知識を統合化する。なお、ソーシャルワーク実習指導Ⅲ講義内での指導内容は、帰校指導記録を用いて実習先指導者へ定期的に報告することとなる。		
8. 学習目標	ソーシャルワーク実習指導Ⅲが終了した時点で、下記の目標を達成することが期待される。 1) 実習での実践を振り返り、利用者や地域の状況を理解した上で、その生活上の課題を把握、支援計画の作成、実施・評価について明確に説明できる。 2) 実習での実践を振り返り、利用者やその関係者への権利擁護活動とその評価について明確に説明できる。 3) 実習での実践を振り返り、多職種連携及びチームアプローチの実践的理解について明確に説明できる。 4) 実習での実践を振り返り、実習先施設・機関が地域社会の中で果たす役割や具体的な地域社会への働きかけについて説明できる。 5) 実習での実践を振り返り、地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発について説明できる。 6) 実習での実践を振り返り、社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任について説明できる。		
9. アサシメント (宿題) 及びレポート課題	・課題 1～3：講義日程にて示す通り ・実習報告書		
10. 教科書・参考書・教材	【教科書】一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集『ソーシャルワーク実習指導・実習 (社会専門) 8』中央法規出版、2020.12 【参考書】東京福祉大学『ソーシャルワーク実習の手引き』※ソーシャルワーク実習指導Ⅰにて配布		
11. 成績評価の基準と評定の方法	○成績評価の基準 1. 実習での実践を振り返り、利用者や地域の状況を理解した上で、その生活上の課題を把握、支援計画の作成、実施・評価について明確に説明できる。 2. 実習での実践を振り返り、利用者やその関係者への権利擁護活動とその評価について明確に説明できる。 3. 実習での実践を振り返り、多職種連携及びチームアプローチの実践的理解について明確に説明できる。 4. 実習での実践を振り返り、実習先施設・機関が地域社会の中で果たす役割や具体的な地域社会への働きかけについて説明できる。 5. 実習での実践を振り返り、地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発について説明できる。 6. 実習での実践を振り返り、社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任について説明できる。 ○評定の方法 1. 課題 1～課題 3 30% 2. 実習報告書 30% 講義参加度 (事前事後学習、提出物等状況を含む) 40% なお、本学規定により、3/4 以上の出席が確認できない場合は単位の取得を認めない。		
12. 受講生へのメッセージ	本科目では、学生個人の思考力、創造力、問題解決能力を養成し、より実践的な技術、知識を得ることを目的としている。目的達成のため、受講生は以下の条件を守ること。 1. 授業中は、常に高い緊張感と、集中力を保って受講すること。学生には積極的な態度を望む。 2. 自ら進んで教員に質問すること。理解できないことをそのまま放っておかないこと。 3. 欠席、遅刻、早退をしないこと。欠席、遅刻、早退をした場合はその理由を必ず教員に書面をもって報告すること。 4. 明らかに授業態度が悪いと判断された際は、厳格な指導を行う。指導後も授業態度の改善が見られない場合、たとえ皆出席であっても F 評価になるので注意すること。 5. 授業中、私語、居眠り、携帯電話等の操作は絶対にしないこと。 教員は以下のことを実行する。 1. 授業の目的、目標を明確にし、授業の進行はシラバスに沿って行う。 2. 受講生全体に聞こえる大きさの声で話しをするともに専門用語はわかりやすく説明する。 3. 一方通行の講義だけを行うのではなく、ディスカッションを行いながら、学生が積極的に授業に参加 (発言、発表等) できるよう双方向対話型の学習環境を作る。 4. 遅刻、早退、授業中の居眠り、私語、携帯電話の使用等、授業に臨むうえで不適切な態度が見受けられた場合は、厳格に対処する。		

13. オフィスアワー		第 1 回の講義時に通知します。	
14. 授業展開及び授業内容			
講義日程	授業内容	学習課題	
第 1 回	・ ソーシャルワーク実習指導Ⅱの振り返りと確認 ・ ソーシャルワーク実習指導Ⅲの講義内容、進め方の説明 ・ ソーシャルワーク実習（A）実習計画書の確認	事前学習	ソーシャルワーク実習（A）実習計画の内容を説明できるようにする。
		事後学習	ソーシャルワーク実習（A）実施に向けて関連書類等を整える。
第 2 回	・ 実習の振り返り（帰校指導記録を用いた報告）：実習実施上の問題点等について帰校指導記録を用いた報告と検討を行う。 ・ ソーシャルワークケース記録の記載方法の理解：	事前学習	帰校指導記録（第 1 回）の記載できる事項をまとめておく。
		事後学習	帰校指導記録の内容を整理し、実習指導者へ提出する。
第 3 回	・ 実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討	事前学習	ここまで実施してきた実習内容を振り返り、課題点、評価点をまとめる。
		事後学習	実習内容について、講義で話し合った内容をまとめる。
第 4 回	・ 実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討 ・ 利用者やその関係者への権利擁護活動とその評価：クライアントやその関係者に対する権利擁護活動の実際と求められる知識・技術について理解を深める（課題 1）	事前学習	課題 1 に関連する取り組み内容を整理する。
		事後学習	課題 1 の作成
第 5 回	・ 実習の振り返り（帰校指導記録を用いた報告）：実習実施上の問題点等について帰校指導記録を用いた報告と検討を行う。	事前学習	帰校指導記録（第 2 回）の記載できる事項をまとめておく。
		事後学習	帰校指導記録の内容を整理し、実習指導者へ提出する。
第 6 回	・ 実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討 ・ 多職種連携とチームアプローチについての理解：実習先で関わる他の職種の専門性や業務に関する基本的な理解を深める（課題 2）	事前学習	課題 2 に関連する情報を整理する。
		事後学習	課題 2 の作成
第 7 回	・ 実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討	事前学習	ここまで実施してきた実習内容を振り返り、課題点、評価点をまとめる。
		事後学習	実習内容について、講義で話し合った内容をまとめる。
第 8 回	・ 実習の振り返り（帰校指導記録を用いた報告）：実習実施上の問題点等について帰校指導記録を用いた報告と検討を行う。	事前学習	帰校指導記録（第 3 回）の記載できる事項をまとめておく。
		事後学習	帰校指導記録の内容を整理し、実習指導者へ提出する。
第 9 回	・ 実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討	事前学習	ここまで実施してきた実習内容を振り返り、課題点、評価点をまとめる。
		事後学習	実習内容について、講義で話し合った内容をまとめる。
第 10 回	・ 実習の振り返り：実習実施上の問題点等について検討 ・ 専門職の倫理綱領と実践についての理解：実習施設・機関での実践と専門職倫理との関係性についてまとめる（課題 3）	事前学習	課題 3 に関連する取り組み内容を整理する。
		事後学習	課題 3 の作成
第 11 回	・ 実習の評価及び課題の明確化：ソーシャルワーク実習（A）の自己評価を行うとともにソーシャルワーク実習（B）に取り組むべき課題について明確にする。	事前学習	ソーシャルワーク実習（A）の記録を整理し、取り組み内容について振り返る。
		事後学習	ソーシャルワーク実習（A）実習生自己評価表を作成する。
第 12 回	・ ソーシャルワーク実習（B）実習計画書の作成	事前学習	ソーシャルワーク実習（B）の実習目標を確認する。
		事後学習	ソーシャルワーク実習（B）の実習計画書を作成し、ソーシャルワーク実習指導Ⅲの担当教員へ提出する。
第 13 回	・ ソーシャルワーク実習（B）に向けて最終確認：感染症対策に関する指導	事前学習	ソーシャルワーク実習（B）「実習施設・機関の概要」「実習計画書」の添削を受ける。
		事後学習	ソーシャルワーク実習（B）に関連する記録等を整理する。
第 14 回	※ソーシャルワーク実習（B）終了後の実施 ・ 実習の評価及び課題の明確化：ソーシャルワーク実習（B）の自己評価とともにソーシャルワーク実習（A）を踏まえたソーシャルワーク実習全般の評価を行う。	事前学習	ソーシャルワーク実習（B）の記録を整理し、取り組み内容について振り返る。
		事後学習	ソーシャルワーク実習（B）実習生自己評価表を作成する。
第 15 回	※ソーシャルワーク実習（B）終了後の実施 ・ 実習後の学習課題：実習体験や実習記録を踏まえた課題の整理と実習報告書の作成	事前学習	ソーシャルワーク実習（A）、ソーシャルワーク実習（B）での実施内容を整理する。
		事後学習	実習報告書の作成